

令和5年度 「全国学力・学習状況調査」及び

「佐賀県小・中学校学習状況調査」の分析結果と今後の取り組みについて

令和5年10月27日

小城市立 桜岡小学校

4月に行われた全国学力・学習状況調査(6年国語・算数)と佐賀県小・中学校学習状況調査(5年国語・算数)の本校の結果をお知らせします。全国調査での生活習慣に関する意識調査について、数値が高かった項目と低かった項目を挙げ、分析と今後の取り組みについてまとめました。また、国語と算数については、学習指導要領の内容別の主な課題と改善に向けた取り組みについてまとめています。

〔 調査結果のポイント 〕 (成果) (課題)

6年生：全国的な傾向として以下の事項が報告されています。本校でも同じ傾向が見られます。

国語

話や文章の中心となる語や文を捉えることは比較的できている。

複数の情報を整理して自分の考えをまとめたり書き表し方を工夫したりすることに課題がある。

算数

式を日常生活に関連付けて読み取ることはできている。

図形を構成する要素などに着目して、図形の性質や計量について考察することに課題がある。

5年生：佐賀県全体の傾向として以下の事項が報告されています。

国語

ことわざの意味を知り、正しく使っている。漢字辞典の使い方を理解している。

登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えている。

司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して、考えをまとめることに課題がある。

連用修飾語について理解できていない。

内容の中心を明確にし、自分の考えと理由や具体的な事例を2段落構成で書くことに課題がある。

算数

十進位取り記数法について理解している。

帯分数 + 真分数 = 帯分数 (繰り上がりあり) の同分母分数の計算ができる。

図を使って、比較量を求めるための乗法の立式ができる。

小数第一位 - 小数第二位の計算に課題がある。

分度器の中に示された角の大きさの目盛りの読み取り方を理解できていない。

ひし形の作図に課題がある。

複合図形で、面積の求め方や図を表した式を選ぶことに課題がある。

〔本校各学年の正答率について〕

6年国語：・教科としての正答率は、県平均を大きく下回っています。

6年算数：・教科としての正答率は、県平均を大きく下回っています。

5年国語：・教科としての正答率は、県平均をやや下回っています。

5年算数：・教科としての正答率は、県平均を大きく下回っています。

〔今後の取り組みについて〕

分析結果をもとに今後の授業改善等に生かし、学力向上をはかっていきます。家庭学習の具体的な取り組み・お願いについてと共に ページに掲載しております。ご理解ご協力の程よろしく申し上げます。

学力・学習状況調査から
《 5年生 国語科 》

全体の概要

- ・教科としての正答率は、県平均をやや下回っています。
- ・知識・技能、思考・判断・表現の分野は県平均をやや下回っています。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット、スマホの普及で、考えて書く経験が少ないため、漢字を思い出して書く力が不足しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を思い出して、自分で書くことの練習に取り組みさせます。 ・漢字の意味、文の意味を考えて、同音異義語の問題に取り組むようにさせます。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・段落どうしの関係を読み取ることができていません。 ・初見の文章の内容を理解できていません。 ・選択肢に書かれていることを理解、整理できていません。 ・条件をつけて書くことができていません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段落相互の関係をとらえるために、段落の関係図を書く授業の充実を図ります。 ・教科書以外の文章を読む時間を確保します。 ・読書の習慣を身に付けさせます。 ・段落ごとに要約する力をつけるような取り組みをします。 ・ふりかえりや日記などを書く際に、条件をつけて書くなどの取り組みをします。

学力・学習状況調査から
《 5年生 算数科 》

全体の概要

- ・教科としての正答率は、県平均を大きく下回っています。
- ・知識・技能、思考・判断・表現の分野は県平均を大きく下回っています。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の順序が理解できていません。 ・問題を正確に読み取れていません。 ・平行と垂直の関係の理解や、立体のイメージを持つことが難しいようです。 ・グラフの要素を読み取ることが難しいようです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計算の習熟をはかります。 ・自分で図を書くことを授業の中に取り入れ習熟を図ります。 ・平面図などを使い、実際に自分たちで立体を作る活動を取り入れます。 ・他教科との横断的な取り組みを行い、グラフや表の読み取り方の習熟を図ります。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・表から読み取ったものを、式に表すことができていません。 ・問題を式や図に表すことに課題が見られます。 ・問題文の条件を表から見つけ出すことが難しいようです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題や表の要点を読み取る練習を行い、習熟を図ります。 ・回答に必要な言葉や数を、問題文や図、表に書き込む習慣をつけます。

学力・学習状況調査から

《 6年生 国語科 》

全体の概要

- ・教科としての正答率は、県平均を大きく下回っています。
- ・知識・技能の分野は県平均をやや下回っています。
- ・思考・判断・表現の分野は県平均を大きく下回っています。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を正確に覚えることができていません。 ・敬語の使い方が身につけていません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字を覚える」学習でも「作業」ではなく何らかの「思考」をともなう手立てを取るようになります。 ・授業にゲーム的要素を取り入れるなどして児童が主体的に学習に取り組めるよう工夫します。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料や条件を関連付けて読むことが苦手だと思われる。 ・文章を構成として読み取るのが苦手な児童が情報量の多さに圧倒されているようです。その結果無答につながっていると思われる。 ・長文の上に複数の資料を関連付けて読み取るためには、「読む」「理解」「記憶」「問題に合ったことを選択する」という問題解決までの処理に用いる複数の能力を総動員して解決しなければならないのですが、その力が不足しているようです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科においても複数の資料や条件を関連付けて読んだり、書いたりする学習活動を取り入れていきます。 <p>の力をつけるために授業の中で次のような手立てをとります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題字と同じ言葉、繰り返し出てくる言葉など、キーワードを見つける方法を具体的に示し、印やラインをつける方法を身につけさせるようにします。 ・筆者の意図を読み取る力をつけるためには具体的にどうすればよいかをスキルとして身につけさせるようにします。 <p>例) 大切なことは繰り返し出てくる 共通点と相違点を見つける 対比の関係を見つける</p>

学力・学習状況調査から 《 6年生 算数科 》

全体の概要

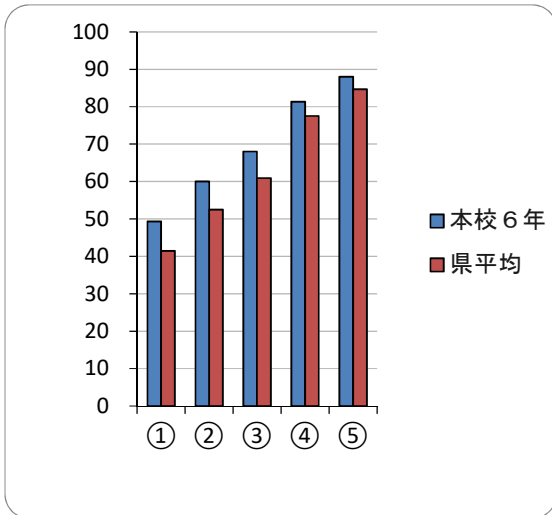
- ・教科としての正答率は、県平均を大きく下回っています。
- ・知識・技能、思考・判断・表現の分野は県平均を大きく下回っています。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・知識としては身に付いているかもしれませんが、その知識を使って考えることができていないようです。 ・表やグラフを読み取る力の育成が必要だと思われます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物や半具体物の操作を取り入れるなどしながら、知識・技能の定着を図っていくようにします。 ・獲得した知識・技能を活用して問題解決を行う学習を通して、知識の構造化を図っていきます（深い学び） ・算数だけでなく、理科や社会科など他の教科等においても表やグラフを活用する機会を多く設け、読み取る力や活用する力を育成していきます。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・長い文章を読み、題意を理解すると共に、解決に必要な情報を読み取る力に課題が見られます。 ・文章と図や式を関連させることに課題があります。 ・提示された条件を満たした解答をすることに課題があります。 ・記述問題の正答率が低く、無解答率が高くなっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの情報を含んだ長い問題文から、必要な情報を選択し、問題解決を行うような練習を行います。 ・図と式を関係付けながら自分の考えを説明する学習活動を多く取り入れます。その際、 自分の考えをノートに記述。 その内容を友達に説明する。 という段階を踏ませることで、各個人にしっかりと考えさせる時間をとるとともに、自分の考えを文字や言葉で表現する力を育てていきます。 ・まとめや振り返りにおいて、「 という言葉を使って書きましょう。」というように条件をつけて書かせることで、条件を満たして解答する練習を行います。（算数に限らず、他の教科等や家庭学習の日記などでも実施していきます。）

《6年意識調査》

【数値が特に高かった項目】

調査の項目	
①	これまで、学校の授業以外で、英語を使い機会がありましたか
②	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか
③	国語の勉強は好きですか
③	国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか
③	国語の授業の内容はよく分かりますか



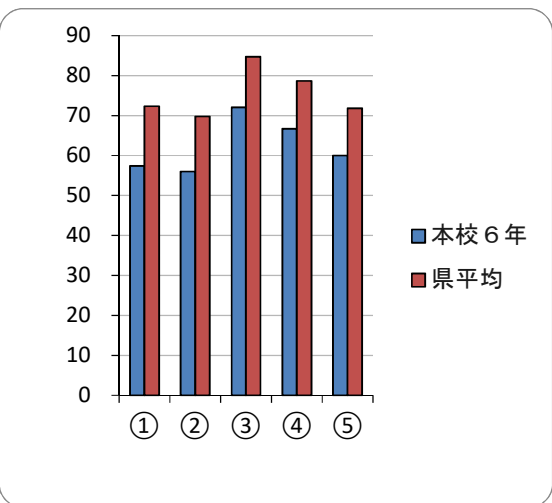
【分析と取組】

国語や英語などの言語学習において、コミュニケーションをとることに
対して意欲が高いので、普段の授業の中に話し合い活動を多く設定
することで、児童の学習意欲を高めていく。

英語を使う機会が多い、将来英語を使って生活したいというように、英
語を使う必要性を感じている児童が多い。今後、外国語科の授業を行
う際に、実際に児童が遭遇しそうな場面でのやりとりを設定するなど、
工夫を行う。

【数値が特に低かった項目】

調査の項目	
①	読書は好きですか
②	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか
③	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか
④	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分がすべきことを決めて取り組んでいますか
⑤	英語の勉強は好きですか



【分析と取組】

読書が好きだと回答した児童は57%で、県平均よりもかなり低い。朝の
読み聞かせや図書館祭りの活用、授業時間内での読書の機会を増や
すことで、児童が図書に親しめるようにする。

学級活動の時間の中に、話し合い活動の時間自体が十分に確保され
ていないことが考えられる。そのため、学級活動の中に話し合い活動
の場を設定し、自己実現の場を増やしていく。

英語の勉強が好きという児童が増えるように、イングリッシュウィークなど
を設定するなど、英語に親しめる環境づくりを行う。

R5 これからの取り組み

<p>学校の 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な学習内容理解・定着させるための工夫を図る。 ・たくさんの情報の中から、必要な内容を見つけ出し、整理するための力をつけられるような指導の工夫を行う。 ・条件を与えて、話したり書いたりする学習活動を取り入れる。
<p>1年</p>	<p>基礎・基本の定着（タブレットの活用により効果を高める） 読書指導、あのね日記指導により知識を広げる。 家庭学習の徹底</p>
<p>2年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着（ICTの利活用により、知識の定着と思考力の向上を図る。） ・ペア学習やグループ学習を取り入れ、考えを話し合う場を意図的に設ける。 ・家庭学習を徹底させる
<p>3年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物語を読んだ後の感想を書く学習で、条件をつけて取り組ませる。 ・一人一台端末を利用し、自分の考えを整理する時間を確保する。友達に説明する時間を確保する。
<p>4年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を振り返る時間を授業の初めや終わりに確保する。 ・1人1台端末を使って、基礎基本の定着を図る。 ・ペア学習やグループ学習で、自分の考えを説明する時間を設ける。
<p>5年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を使って文章を書かせる。 ・読書時間を確保する。 ・振り返りや日記は、量や内容に条件を付けて書かせる。 ・四則計算の時間を作る。 ・言葉や数を図表に書き込ませる。
<p>6年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の一言日記を書かせるときに、条件作文に取り組む。 ・学習の際、ペア学習やグループ学習で自分の考えを説明する時間を設定する。
<p>保護者・家庭 の協力を得る こと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習チェック週間を通して、児童の家庭での学習状況について把握してもらおうとともに、習慣化へ向けて関心をもってもらおう。

桜岡小児童の家庭学習の充実について

～ 全国学力学習状況調査 意識調査結果より ～

意識調査結果の中で、家庭学習に関する質問に関して、以下のような傾向が見られました。

家庭で自分で計画を立てて学習できている児童は約半数で、県や全国平均と比べ、大きく下回っていました。家庭では宿題等定められた課題だけにしか取り組めていないようです。「個に応じた」学習のためには、得手不得手や習熟度に合わせて計画立てて学習することが必要です。

平日(月～金)2時間以上学習をしている児童は全体の4分の1で、県・全国平均と同じ程度いますが、30分未満が3分の1弱います。学校外では宿題以外の学習がほぼできていないことがうかがわれます。

土・日の学習時間は、県・全国と比べて全体的に少ない傾向にあり、中には、全くしない児童が2割弱見られます。

家庭学習の充実に向けて

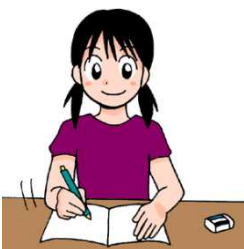
学校では、学習内容の定着に向けて、様々な工夫や取組をしています。家庭学習を行うことで、その定着はより確かなものになります。また、家庭学習は子どもが自ら学ぶ習慣を身に付けるためにとても大切です。家庭と学校が共通理解のもと、子どもの学習内容の定着と学習の習慣化、そして自主性を育てていけるよう、ご協力よろしく願います



何をすればよいの？

子ども一人ひとりの顔や性格が違いうように、学習の得手・不得手も違います。残念ながら、「これをすればみんなが100点！」という学習方法はありません。良さを伸ばす学習、苦手を克服する学習どちらも大切ですが、「個に応じた」学習をするためには、学習状況の把握が必要です。そのためにも子どもが学習している内容にできるだけ興味を示し、認め、褒めたり励ましたりしてください。そうすることで、子どもは学習意欲を高めます。もし、学習内容について尋ねてきたら、後に紹介する学習サイトや教科書などを参考に、子どもの学習状況に合わせて取り組ませてください。

目指す子どもの姿



子どもたち一人ひとりの個性に合わせ、それぞれに合った学習のスタイルや内容があります。一番大切なことは「自分で計画を立てて実行すること」です。そして、時折、自分の学びを振り返って、よい点は伸ばし、改善点は改めることを繰り返して、自分に合った家庭学習のスタイルを作ってほしいと思います。

家庭学習のお役立ちサイト

子どもの学び応援サイト（文部科学省）

https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index_00001.htm



佐賀県教育センター（家庭学習プリント集）

<https://www.saga-ed.jp/kenkyu/manabi/>



家庭学習の手引き（佐賀県教育委員会）

https://www.pref.saga.lg.jp/kyouiku/kiji00354318/3_54318_242615_up_6se1jcpm.pdf



ちびむすドリル(家庭学習プリント集)

<https://happyilac.net/syogaku.html>



朝日新聞 放課後ののしーと

<https://houkago.gakken.jp/?iref=logo>



おうちで学ぼう！NHK for School

<https://www.nhk.or.jp/school/ouchi/>



かいとうねこぴー

<https://www.nekopy.com/>

